



Cisco Unity Express 7.1 以降のソフトウェア アクティベーション

初版：2009年8月24日

最終更新日：2012年11月7日

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。**

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLXN, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Express 7.1 以降のソフトウェア アクティベーション
© 2009-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



CONTENTS

Cisco Software Activation の概念に関する概要 1

内容 1

シスコ ソフトウェア ライセンシング プロセスに関する情報 2

シスコ ソフトウェア ライセンシングの概念 2

Cisco Product Licensing Registration Portal 2

製品認証キー 2

一意のデバイス ID 3

シスコ機能のソフトウェア ライセンスの検証 3

Cisco License Manager 3

エンド ユーザ ライセンス契約書 3

ライセンスのタイプ 3

恒久ライセンス 4

一時ライセンス 4

ソフトウェア アクティベーション 5

製造時にプレインストールされるライセンス 5

Cisco License Manager を使用したソフトウェア アクティベーションの自動化 6

EXEC コマンドを使用したライセンス ソフトウェア アクティベーション 7

ライセンスの移動 8

2 つの稼働中のデバイス間でのライセンス移動 8

RMA ライセンスの移動 9

Cisco Unity Express バージョン 7.1 以降のソフトウェア アクティベーション 11

内容 11

Cisco Unity Express ソフトウェア アクティベーションの前提条件 12

Cisco Unity Express のソフトウェア アクティベーションの概要 12

必要な機能の選択 13

CSL ライセンスへの移行 14

次の作業 15

メールボックス、ポート、IVR セッション、および TimeCardView ユーザの追加 15

次の作業 16

RMA ライセンス 16

次の作業 16

再ホスト ライセンス 16

次の作業 16

ソフトウェア ライセンスの取得	16
移行ライセンスの取得	16
必要な情報	17
移行ポータルの使用	17
Cisco License Manager の使用	17
新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得	19
必要な情報	19
ライセンシング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得	19
次の作業	20
Cisco License Manager を使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得	20
RMA ライセンスの取得	20
必要な情報	20
ライセンシング ポータルを使用した RMA ライセンスの取得	20
Cisco License Manager を使用した RMA ライセンスの取得	21
次の作業	21
再ホスト ライセンスの取得	21
必要な情報	21
ライセンシング ポータルを使用した再ホスト ライセンスの取得	21
Cisco License Manager を使用した再ホスト ライセンスの取得	22
次の作業	22
ライセンスのインストール	22
CLI コマンドを使用したライセンスのインストール	22
Cisco License Manager を使用したライセンスのインストール	24
次の作業	24
評価ライセンスのアクティブ化	25
コール エージェントの設定	27
ポストインストール プロセス中のコール エージェントの設定	27
起動後のコール エージェントの設定	28
その他の関連資料	28
関連資料	28
シスコのテクニカル サポート	29
用語集	29



Cisco Software Activation の概念に関する概要

Cisco Software Activation の機能は、シスコ ソフトウェア ライセンスを取得および検証してシスコ機能のソフトウェア セットをアクティブにするための、プロセスおよびコンポーネントの統合コレクションです。この機能はシスコ ソフトウェア ライセンシング (CSL) と呼ばれます。この機能を使用すると、ライセンスを取得した機能の有効化とライセンスの登録を次の方法で行うことができます。

- Cisco Product License Registration Portal を使用する
- デバイスで CLI コマンドを直接使用する
- Cisco License Manager を使用して、ネットワーク全体にわたる配置を対象にライセンスを一括して登録、取得、およびインストールする

この章では、CSL の概念およびプロセスの概要について説明します。

このマニュアルの機能情報の検索

ご使用の Cisco Unity Express ソフトウェアのリリースによっては、このマニュアルに記載されている機能の一部がサポートされない場合があります。ご使用のリリースでサポートされる機能を確認するには、『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrators's Guide for 3.0 and later versions](#)』の機能マップ テーブルを参照してください。

ライセンスに関する最新の情報については、ご使用のプラットフォームのマニュアルも参照してください。

プラットフォームのサポート情報の検索

ご使用の Cisco Unity Express のリリースをサポートするプラットフォームを確認するには、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity_exp/compatibility/cuecomp.htm にあるサポートマトリクスを参照してください。

内容

- 「シスコ ソフトウェア ライセンシング プロセスに関する情報」 (P.2)



シスコ ソフトウェア ライセンシング プロセスに関する情報

Cisco Software Activation ソリューションを使用するには、次の概念について理解する必要があります。

- 「シスコ ソフトウェア ライセンシングの概念」 (P.2)
- 「ライセンスのタイプ」 (P.3)
- 「ソフトウェア アクティベーション」 (P.5)
- 「ライセンスの移動」 (P.8)

シスコ ソフトウェア ライセンシングの概念

次の各項では、理解する必要がある、シスコ ソフトウェア ライセンシングに関する概念について説明します。

- 「Cisco Product Licensing Registration Portal」 (P.2)
- 「製品認証キー」 (P.2)
- 「一意のデバイス ID」 (P.3)
- 「シスコ機能のソフトウェア ライセンスの検証」 (P.3)
- 「Cisco License Manager」 (P.3)
- 「エンドユーザー ライセンス契約書」 (P.3)

Cisco Product Licensing Registration Portal

<http://www.cisco.com/go/license> にあるライセンシング ポータル (Cisco.com アカウントが必要) では、次のサービスが提供されます。

- ライセンスの取得および製品認証キー (PAK) の登録
- 返品許可 (RMA) 交換ライセンス
- ライセンスの再送信操作
- ライセンスの取り消しおよび移動操作
- ライセンスの再ホスト
- ライセンスの移行

製品認証キー

シスコ ライセンシング ポータルを使用するには、PAK が必要になる場合があります。PAK は、特定のプラットフォーム向けのフィーチャ セットの使用权を注文して購入すると提供されます。PAK は受領書の代わりになるもので、ライセンスの取得およびアップグレードにおける重要なコンポーネントです。

バルク PAK を購入して、デバイスのライセンスを複数取得することもできます。

一意のデバイス ID

シスコ ソフトウェアは、保存されている一意のデバイス ID (UDI) (すべてのシスコ ハードウェア デバイスに割り当てられている一意の固定 ID) とデバイスの UDI を比較することにより、ライセンスの検証チェックを実行します。UDI の主要なコンポーネントは、製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) の 2 つです。UDI は、ほとんどのシスコ ハードウェア デバイスの背面のラベルに印刷されており、ソフトウェアを使用して確認できます。



(注)

ライセンスを登録するときには、正しい UDI を使用する必要があります。

シスコ機能のソフトウェア ライセンスの検証

シスコ機能のソフトウェア ライセンシングは、検証キーのシステムを使用して、新しいフィーチャセットを配置するための簡単なメカニズムを提供します。これにより、ソフトウェアをアップグレードおよび保守するための高度な機能がシスコのお客様に提供されます。

シスコ ルータまたはスイッチの一部のフィーチャセットでは、有効にするためにライセンス キーが必要である場合があります。シスコ ライセンシング ポータル、EXEC コマンド、または Cisco License Manager アプリケーションを使用してライセンス キーを取得できます。ライセンス キーは、特定のシスコ フィーチャセットに対して発行され、デバイスの UDI に固定されます。これはノード固定ライセンスと呼ばれます。

Cisco License Manager

Cisco License Manager は、シスコのお客様に無料で提供されるクライアント ベースまたはサーバ ベースのアプリケーションで、ネットワーク上のシスコ デバイスを自動的に検出し、ライセンス キーの収集タスクを簡素化します。このアプリケーションの詳細情報については、『[User Guide for Cisco License Manager](#)』を参照してください。

エンド ユーザ ライセンス契約書

ライセンシング プロセスの一部として、エンド ユーザ ライセンス契約に記載されている条件に同意する必要があります。この契約は、新しいデバイスを最初に使用するとき自動的に受け入れられます。ただし、評価用の一時ライセンスおよび拡張一時ライセンスでフィーチャセットをアクティブにするには、明示的に同意する必要があります。

エンド ユーザ ライセンス契約の条件は、http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html でオンラインで確認できます。

ライセンスのタイプ

Cisco Unity Express では、次のタイプのライセンスが使用されます。この項では、これらのライセンスについて説明します。

- 「恒久ライセンス」(P.4)
- 「一時ライセンス」(P.4)

恒久ライセンス

恒久ライセンスは、使用期間が定められていない永続的なライセンスです。恒久ライセンスをインストールすると、ソフトウェア イメージの機能にアクセスするために必要なすべての権限が提供されます。恒久ライセンスはすべてノード固定で、ソフトウェアのインストール中にライセンシング インフラストラクチャによって検証されます。また、一度インストールしたら、それ以降のリリースにアップグレードする必要はありません。

シスコの製造部門では、購入されたフィーチャ セットに対応する恒久ライセンスを、注文されたデバイスにプレインストールしています。Cisco Software Activation プロセスを使用して新しいデバイスのライセンスを有効にする必要はありません。詳細については、「ソフトウェア アクティベーション」を参照してください。

一時ライセンス

一時ライセンスは、使用期間が特定の期間（60 日など）に制限されているライセンスです。一時ライセンスをアクティブにするには、エンド ユーザ ライセンス契約に同意する必要があります。

一時ライセンスには、シスコ イメージに組み込まれているライセンスと Cisco TAC から取得する拡張ライセンスの 2 つのタイプがあります。



(注)

一時ライセンスをアクティブにする前に、シスコのエンド ユーザ ライセンス契約に同意する必要があります。

次の各項では、一時ライセンスのタイプを詳しく定義します。

- 「緊急ライセンス」(P.4)
- 「評価ライセンス」(P.4)
- 「拡張ライセンス」(P.5)

緊急ライセンス

デバイスで障害が発生し、交換したデバイスと障害が発生したデバイスのライセンスが異なる場合、ネットワーク ダウンタイムの発生を防ぐためにソフトウェア イメージに組み込まれている評価ライセンスを使用できます。これにより、必要な機能の設定をライセンス キーなしで行うことができます。ただし、この場合でも、エンド ユーザ ライセンス契約に同意する必要があります。また、このタイプのライセンスには 60 日の使用期限があることを認識する必要があります。



(注)

シスコ ライセンシング ポータルにアクセスして恒久的な RMA 交換ライセンスを取得する必要があります。

評価ライセンス

評価ライセンスもまた一時ライセンスで、新しいハードウェアのフィーチャ セットを評価するために使用されます。

組み込みライセンスも評価目的に使用できますが、組み込みライセンスは緊急時だけ使用することをお勧めします。



(注)

評価ライセンスの期限が切れる前に、シスコ ライセンシング ポータルにアクセスしてライセンスのステータスをアップグレードする必要があります。

拡張ライセンス

評価ライセンスの期限が切れた場合、TAC に連絡して拡張ライセンスを取得できます。拡張ライセンスは、評価ライセンスと同様にノード固定で、使用方法に応じて有効期間が特定の期間（60 日など）に制限されます。



(注) 拡張ライセンスの使用許可を取得する必要があります。

ソフトウェア アクティベーション

ソフトウェア アクティベーションでは、ライセンス キーを使用して、デバイスのさまざまなフィチャセットを有効にします。



(注) お客様は、ソフトウェアに機能またはメンテナンス アップグレードをいつでも適用できます。メンテナンスアップグレードでは、Cisco Software Activation プロセスを使用する必要はありません。

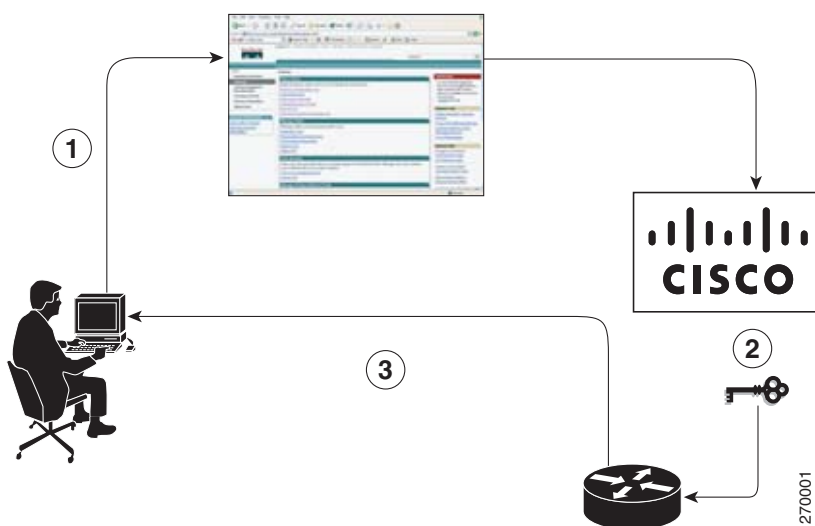
この項では、次のソフトウェア アクティベーション プロセスについて説明します。

- 「製造時にプレインストールされるライセンス」(P.5)
- 「Cisco License Manager を使用したソフトウェア アクティベーションの自動化」(P.6)
- 「EXEC コマンドを使用したライセンス ソフトウェア アクティベーション」(P.7)

製造時にプレインストールされるライセンス

図 1 に、製造時にプレインストールされるライセンスの全体的なライセンス ワークフローを示します。

図 1 製造時にプレインストールされるライセンスのワークフロー



製造時にプレインストールされるライセンスのワークフローを次に示します。

1. お客様がシスコの販売注文ツールを使用してシスコのデバイスを注文します。

2. 注文が注文システムに入力されます。製造部門が情報技術システムを使用して注文情報を取得し、デバイスを製造します。また、製造部門はライセンス サーバにアクセスして製造中のデバイスのライセンス キーを取得し、デバイスにコードをインストールします。デバイスがテストされ、お客様に発送されます。
3. お客様がデバイスを取り付けて設定し、デバイスの運用を開始します。ソフトウェアを使用前にアクティブ化または登録する必要はありません。新しいデバイスは、細かい設定なしにすぐに導入できます。

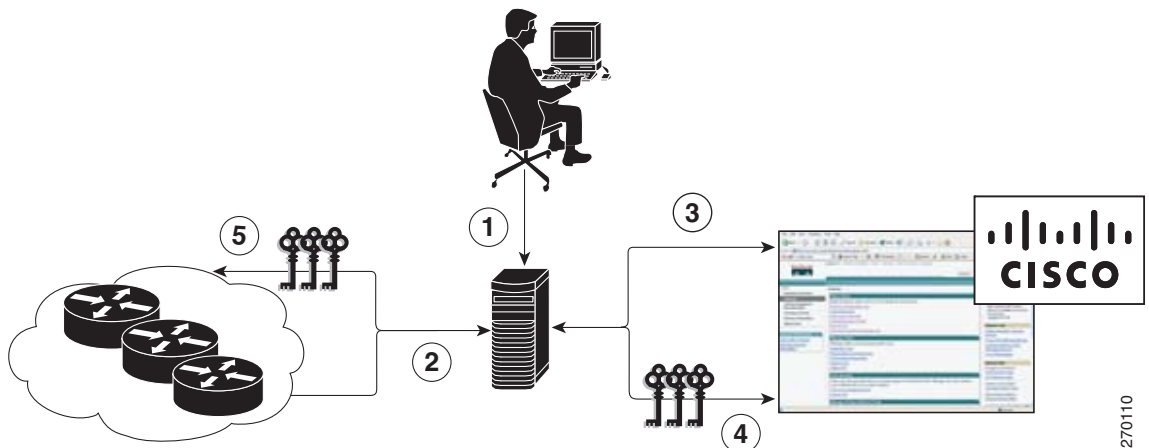
Cisco License Manager を使用したソフトウェア アクティベーションの自動化

Cisco License Manager (CLM) は、さまざまなデバイスに代わって Cisco Product License Registration Portal と透過的に連携します。Cisco License Manager アプリケーションを導入すると、ソフトウェア ライセンスをアップグレードおよび登録する手順の多くを自動化できます。たとえば、PAK を入力して、ライセンスをインストールするデバイスを選択できます。

ネットワーク全体にわたる配置の場合、Cisco License Manager は、セキュリティで保護された方法で Cisco.com のバックエンド ライセンス取得システムと通信し、取得したライセンスをネットワーク全体の管理対象デバイスに配置することで、ライセンスに関連するすべてのワークフローを自動化できます。また、このアプリケーションは、配置したライセンスのインベントリを保持し、ライセンス レポートを生成します。

図 2 に、Cisco License Manager を使用して自動化したアップグレードのライセンス アップグレードプロセスのワークフローを示します。

図 2 Cisco License Manager を使用したライセンス アップグレードのワークフロー



自動化されたライセンス移動プロセスの手順を次に示します。

1. 移動元デバイス、移動先デバイスおよび移動する在庫保管単位 (SKU) を特定します。
2. CLM が自動的に移動元デバイスのデバイス認定証を特定します。
3. CLM が自動的に Cisco.com と通信して権限チケットを取得し、それを移動元デバイスに適用して再ホスト チケットを取得します。
4. CLM が自動的に再ホスト チケットと移動先デバイスの UDI を送信してライセンス キーを取得します。
5. CLM が自動的に移動先デバイスにライセンス キーをインストールします。

Cisco License Manager の詳細については、『[User Guide for Cisco License Manager](#)』を参照してください。

EXEC コマンドを使用したライセンス ソフトウェア アクティベーション

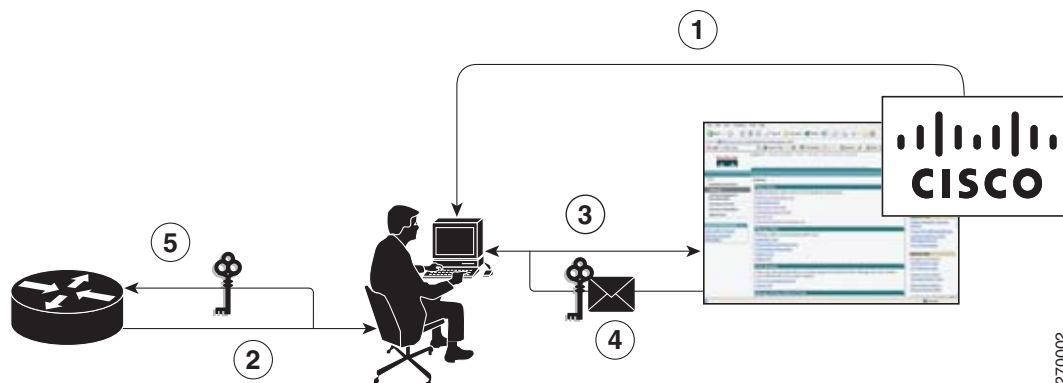
Cisco Software Activation の機能には、次に示す基本的なライセンシング タスクをコマンドラインから実行できる EXEC コマンドが用意されています。

- ライセンス ファイルの格納
- ライセンスのインストール
- 評価ライセンスの追加
- ライセンスへのコメントの追加
- ライセンス認定証の保存
- ライセンスのバックアップ
- 使用されていないライセンスの削除
- ライセンスの再ホスト（取り消しおよび移動）
- ライセンス メッセージのトラブルシューティング
- ソフトウェア イメージのフィーチャ セットの確認

コマンドを使用してライセンスを取得する場合、PAK をコマンドの一部として入力します。これにより、PAK に関連付けられている SKU が取得されます。SKU を選択し、ライセンスをインストールするデバイスの UDI を入力します。その後、ライセンス キーが電子メールまたは郵便で送信されます。ライセンス キーを受け取った後、EXEC コマンドを使用してライセンスをインストールできます。

図 3 に、手動によるライセンスの取得のライセンス アップグレード プロセスのワークフローを示します。

図 3 ライセンスの手動アップグレードのワークフロー



製造時にインストールされるライセンスのワークフローを次に示します。

1. 必要な PAK（製品認証キー）を購入します。
2. UDI がデバイスから取得されます。
3. UDI と PAK がシスコ ライセンシング ポータルに入力されます。
4. ライセンス ファイルが電子メールで送信されます。
5. デバイスにライセンスをインストールします。

次の章では、Cisco Software Activation のコマンドライン インターフェイスについて説明します。

ライセンスの移動

シスコでは、デバイス間でのライセンスの移動シナリオとして次の 2 つをサポートしています。

1. 最初のシナリオでは、移動元デバイスと移動先デバイスの両方がアクティブになっていて正常に動作しています。このシナリオでは、移動元デバイスのライセンスを取り消して、移動先デバイスに対して新しい恒久ライセンスを発行します。
2. 2 番目のシナリオは、いずれかのデバイスが使用できない障害シナリオです。このシナリオでは、RMA ライセンス移動ポータルを使用して、障害が発生したデバイスから RMA デバイスまたは交換したデバイスにライセンスを移動します。

2 つの稼働中のデバイス間でのライセンス移動

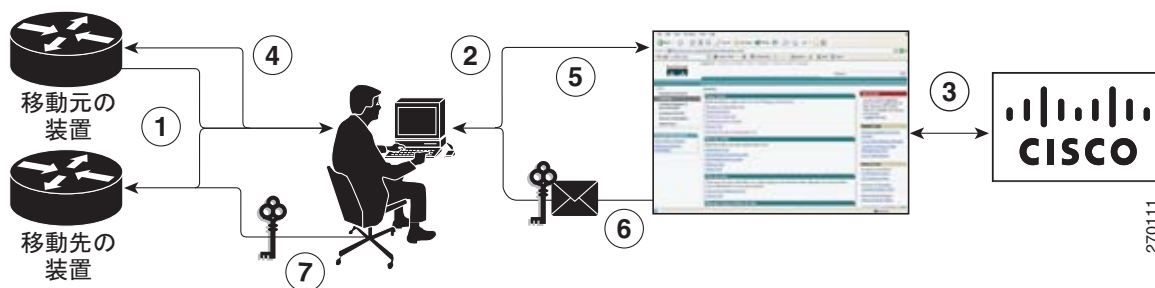
シスコでは CUE ライセンスの移動を制限付きでサポートします。転送は、RMA 用またはライセンスが正しくインストールされていない場合に、同じタイプの CUE デバイスでサポートされています。このプロセスは、ある世代から別の世代への（NM-CUE から NME-CUE、NME-CUE から SRE デバイスなど）ライセンスの移動を想定していません。ライセンスの転送は、再ホストとよばれるプロセスを使用して行います。再ホストプロセスでは、移動元デバイスのライセンスを取り消して、新しいデバイスにライセンスをインストールすることで、ある UDI から別の UDI にライセンスを移動します。

次の方法を使用してライセンスの移動（再ホスト）を実行します。

- Cisco Product License Registration Portal を使用する
- Cisco License Manager アプリケーションを使用する

図 4 に、ライセンスの再ホスト（移動）のプロセスを示します。

図 4 ライセンスの移動のワークフロー



Cisco Product License Registration Portal を使用したライセンスの移動プロセスの概要を次に示します。

1. CLI コマンドを使用して、移動元デバイスと移動先デバイスから UDI とデバイス認定証を取得します（詳細については、『[Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and later versions](#)』を参照してください）。
2. Cisco.com の製品ライセンス登録ページにアクセスし、ライセンス移動ポータル ツールに移動元デバイスのデバイス認定証と UDI を入力します。
3. 移動元デバイスから移動できるライセンスがポータルに表示されます。
移動するライセンスを選択します。権限チケットが発行されます。この権限チケットを使用すると、Cisco CLI コマンドで再ホスト プロセスを開始することができます。

4. 『Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and later versions』の説明に従って、**license revoke** コマンドを使用して移動元デバイスに権限チケットを適用します。取り消しの証拠となる再ホスト チケットが移動元デバイスから発行されます。デバイスには、60 日の猶予期間付きのライセンスもインストールされます。これにより、移動先デバイスへのライセンスの移動に必要な時間が確保されます。
5. Cisco.com のライセンス移動ポータル ツールに、再ホスト チケットと移動先デバイスの UDI を入力します。
6. ライセンス キーを電子メールで受け取ります。
7. 移動先デバイスにライセンス キーをインストールします。

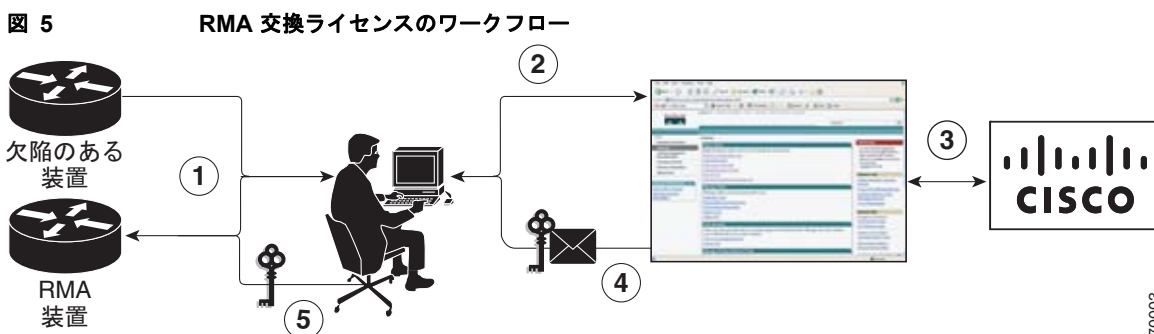
Cisco License Manager を使用すると、プロセスが自動化され、お客様は GUI ウィザードから移動元デバイスと移動先デバイスを選択するだけで済みます。

RMA ライセンスの移動

障害が発生したデバイスから新しいデバイスにソフトウェア ライセンスを移動する必要がある場合、シスコ ライセンシング ポータル

(<https://tools.cisco.com/SWIFT/Licensing/LicenseAdminServlet/rmaLicenseTransfer>) にアクセスして RMA 交換ライセンスを取得する必要があります。ライセンスの取得にサポートが必要な場合は、<http://www.cisco.com/techsupport> からシスコ テクニカル サポートに連絡できます。

図 5 に、RMA 交換ライセンスのプロセスを示します。



RMA 交換ライセンスのプロセスの手順を次に示します。

1. 欠陥のあるデバイスと RMA デバイスの UDI を特定します。
2. cisco.com の RMA ライセンス ポータル ツールに UDI を入力します。
3. 欠陥のあるデバイスに関連付けられているライセンスがライセンス ポータルによって特定されます。
4. 交換ライセンスが発行されます。
5. 新しいデバイスに新しいライセンスをインストールします。



Cisco Unity Express バージョン 7.1 以降のソフトウェア アクティベーション

この章では、バージョン 7.1 以降の Cisco Unity Express のソフトウェア アクティベーション プロセスについて説明します。同様のプロセスが Cisco IOS ソフトウェアのアクティブ化に使用されます。Cisco IOS ソフトウェアのライセンスのインストール、移動、検証、および管理に関する、ソフトウェア アクティベーションの概念、プロセス、タスク、およびコマンドの詳細については、『[Cisco IOS Software Activation Configuration Guide](#)』の「[Cisco Software Activation Conceptual Overview](#)」と『[Cisco Software Activation Tasks and Commands](#)』を参照してください。これらの概念、タスク、およびコマンドの多くは、Cisco Unity Express のソフトウェア アクティベーション プロセスにも適用されます。

内容

この章は次のトピックで構成されています。

- 「[Cisco Unity Express ソフトウェア アクティベーションの前提条件](#)」 (P.12)
- 「[Cisco Unity Express のソフトウェア アクティベーションの概要](#)」 (P.12)
- 「[必要な機能の選択](#)」 (P.13)
- 「[ソフトウェア ライセンスの取得](#)」 (P.16)
- 「[ライセンスのインストール](#)」 (P.22)
- 「[評価ライセンスのアクティブ化](#)」 (P.25)
- 「[コール エージェントの設定](#)」 (P.27)
- 「[その他の関連資料](#)」 (P.28)
- 「[用語集](#)」 (P.29)



Cisco Unity Express ソフトウェア アクティベーションの前提条件

Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールしてアクティブにする前に、適切な Cisco IOS ソフトウェアをインストールしてアクティブにする必要があります。詳細については、次のガイドを参照してください。

- 『[Cisco IOS Software Activation Configuration Guide](#)』の「[Cisco Software Activation Conceptual Overview](#)」
- 『[Cisco Software Activation Tasks and Commands](#)』
- 『[Software Activation on Cisco Integrated Services Routers](#)』
- 『[Release Notes for Cisco Unity Express](#)』



(注)

新しいルータを注文した場合は、Cisco IOS ソフトウェア イメージと指定したパッケージおよび機能に対応するライセンスがプレインストールされた状態でルータが出荷されます。Cisco IOS ソフトウェアを使用前にアクティブ化または登録する必要はありません。ルータのフラッシュ メモリにソフトウェア ライセンス ファイルが格納されています。

Cisco Unity Express のソフトウェア アクティベーションの概要

Cisco Unity Express 7.1 以降では、CSL ライセンシングと呼ばれる新しいタイプのライセンスがサポートされます。CSL ライセンスでは、メールボックスのライセンス カウントに、個人用メールボックスと GDM の両方が含まれます。メールボックスのタイプは、設定時に決まります。また、コールエージェントは、これまでのようにライセンスを使って指定するのではなく、インストール後プロセスの一部として、または起動中に設定できるようになりました。

次のタイプの機能に対応する CLS ライセンスを購入できます。

- メールボックス
- ポート
- IVR
- TimeCardView

たとえば、4 つの IVR セッション、10 個のポート、および 265 個のメールボックスに対応する CSL ライセンスを購入した場合は、自動受付またはボイスメール用に 6 つのポートを使用し、IVR 用に 4 つのポートを使用できます。



(注)

基本的な IVR アプリケーションのボイス メールおよび自動受付のみを使用する場合は、IVR セッションのライセンスを購入する必要はありません。IVR セッションのライセンスは、電子メール、ファクス、データベース アクセスまたは VXML スクリプトなどの高度な IVR 機能がアプリケーションに含まれるときにだけ必要です。各 IVR セッションで 1 つのポートが使用されるため、ボイスメールまたは自動受付アプリケーションで使用できるポートの数が減少します。必要な IVR セッション ライセンスの数を慎重に考慮し、その必要な IVR セッション数のライセンスのみインストールまたはアクティブにしてください。

IVR セッションのライセンス数がポート数以上の場合、ボイス メールおよび自動受付アプリケーショ

ンは、使用可能なポートが不足しているために無効になります。 **show license status application** コマンドは、この状態を「**voicemail disabled, ivr session quantity (x) is equal to or exceeds available ports (Y)**」(X は IVR セッションの数で、Y はポートの数) というエラーメッセージで示します。この状態を変更するには、**license activate ivr sessions N** (N はポートの数未満で、IVR セッションをすべて非アクティブにする場合は 0) コマンドで IVR セッションの数を減らすか、IVR セッションライセンスを削除するか、またはポートライセンスを追加して、**reload** コマンドを実行します。

購入した「ポート」ライセンス数は、ボイス メールと自動受付の両方のコールに使用できます。ボイス メールおよび自動受付のみ使用する場合は IVR ポート ライセンスを購入する必要はありません。IVR ポート ライセンスは、アプリケーションが電子メール、ファクス、またはデータベース アクセスなどの IVR 機能を含める場合に必要です。

Cisco Unity Express 7.1 以降が付属している新しいネットワーク モジュールを注文した場合は、Cisco Unity Express イメージと指定したパッケージおよび機能に対応するライセンスがプレインストールされた状態でネットワーク モジュールが出荷されます。ソフトウェアを使用前にアクティブ化または登録する必要はありません。ネットワーク モジュールのフラッシュ メモリにソフトウェア ライセンス ファイルが格納されています。

格納されていない場合は、次の手順を実行し、Cisco Unity Express をインストールしてアクティブにする必要があります。

ステップ 1 必要な機能およびライセンスを決定します。
詳細については、「[必要な機能の選択](#)」(P.13) を参照してください。

ステップ 2 適切な CSL ライセンス ファイルを取得します。
詳細については、次のいずれかを参照してください。

- 「[移行ライセンスの取得](#)」(P.16)
- 「[新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得](#)」(P.19)



(注) 通常は、ステップ 3 またはステップ 4 のどちらか一方を実行します。

ステップ 3 ライセンスをインストールしてデバイスをリロードします。
詳細については、「[ライセンスのインストール](#)」(P.22) を参照してください。

ステップ 4 評価ライセンスを使用する場合は、ライセンスをアクティブにする必要があります。
詳細については、「[評価ライセンスのアクティブ化](#)」(P.25) を参照してください。

ステップ 5 コール エージェントを設定します。
詳細については、「[コール エージェントの設定](#)」(P.27) を参照してください。

必要な機能の選択

必要な機能の CSL ライセンスを取得するために使用する SKU を決定するには、次のシナリオについて検討してください。

- メールボックス、ポート、および IVR セッションの数を変更せずに、Cisco Unity Express 7.0.x 以前のバージョンを 7.1 以降にアップグレードするには、次のシナリオを参照してください。

「[CSL ライセンスへの移行](#)」(P.14)

- バージョン 7.1 への移行が完了した後に、メールボックス、ポート、IVR セッション、および TimeCardView ユーザのライセンスの数を増やすには、次のシナリオを参照してください。
「メールボックス、ポート、IVR セッション、および TimeCardView ユーザの追加」(P.15)
- RMA の CSL ライセンスを取得するには、次のシナリオを参照してください。
「RMA ライセンス」(P.16)
- 再ホストの CSL ライセンスを取得するには、次のシナリオを参照してください。
「再ホスト ライセンス」(P.16)

CSL ライセンスへの移行

バージョン 7.1 以降にアップグレードする場合は、CSL 以前のライセンスを CSL ライセンスに置き換える必要があります。メールボックス機能とポート機能のライセンスを移行する必要があります。オプションの IVR 機能を購入した場合は、IVR 機能のライセンスも移行する必要があります。これら各タイプのライセンスの移行手順については、下の別の項で説明します。



(注) 以前にライセンスを取得した機能をそのままアップグレードする場合、CSL ライセンスは無料です。

Cisco Unity Express 7.1 以降の機能のライセンスを取得する場合、ライセンスは次に示す単位でだけ追加できます。次のタイプのライセンスを取得できます。

- メールボックス (追加単位は 5)
- ポート (追加単位は 2)
- IVR (追加単位は 2)



(注) CSL ライセンスは、サポートされているすべてのデバイスについて同じです。サポートされているデバイスのリストについては、『[Release Notes for Cisco Unity Express](#)』を参照してください。

これらのライセンスに対応する SKU は次のとおりです。

- FL-CUE-MBX-5
- FL-CUE-PORT-2
- FL-CUE-IVR-2
- FL-TCV-USER-1

CSL ライセンスに移行するには、次の手順を実行します。

- 所有している CSL 以前のライセンスを確認するには、**show software license** コマンドを使用します。

CSL 以前のライセンスの名前には、ライセンスの追加単位数が含まれます (例: SCUE-LIC-25CME)。
- メールボックスの場合は、使用するグループ配信メールボックス (GDM) の数を追加します。この数は CSL 以前のライセンスの数には含まれませんが、CSL ライセンスの数には含まれます。
- CSL 以前のライセンスを取得した機能の総数を、該当する CSL SKU の名前に含まれる追加単位数で除算します。

メールボックスの場合は、5 で除算します。ポートの場合は、2 で除算します。IVR セッションの場合は、2 で除算します。

結果が整数にならない場合は、端数を切り上げます。これにより、必要な CSL 差分ライセンスの明確な数がわかります。

たとえば、次の CSL 以前のライセンスと 10 個の GDM を所有しているとします。

- SCUE-LIC-100CCM
- 8 インスタンスの SCUE-LIC-PORT-2
- SCUE-IVR-S16

この場合は、次のライセンスを選択する必要があります。

- 22 インスタンスの FL-CUE-MBX-5
- 8 インスタンスの FL-CUE-PORT-2
- 8 インスタンスの FL-CUE-IVR-2



(注) ご使用のハードウェアがサポートするポートの最大数の詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express](#)』を参照してください。

次の作業

SKU を使用して新しいライセンスを無料で取得するには、「[移行ポータルの使用](#)」(P.17) に進んでください。

メールボックス、ポート、IVR セッション、および TimeCardView ユーザの追加

Cisco Unity Express 7.1 以降のバージョンの追加機能のライセンスを購入する場合、ライセンスは次に示す単位でだけ追加できます。これらのライセンスは、サポートされているすべてのデバイスについて同じです。サポートされているデバイスのリストについては、『[Release Notes for Cisco Unity Express](#)』を参照してください。次のタイプのライセンスを取得できます。

- メールボックス（追加単位は 5）
- ポート（追加単位は 2）
- IVR（追加単位は 2）
- TimeCardView ユーザ（追加単位は 1）

これらのライセンスに対応する SKU は次のとおりです。

- FL-CUE-MBX-5
- FL-CUE-PORT-2
- FL-CUE-IVR-2
- FL-TCV-USER-1

必要なライセンスの総数を特定するには、CSL ライセンスの名前に含まれる追加単位数と購入する追加ライセンスの明確な数を乗算します。たとえば、FL-CUE-MBX-5 はメールボックスの追加単位数が 5 であることを表しています。FL-CUE-MBX-5 の明確な数として 4 を選択した場合、総数は 5 を 4 で乗算して 20 になります。



(注)

ご使用のハードウェアがサポートするポートの最大数の詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express](#)』を参照してください。

次の作業

SKU を使用して CSL ライセンスを取得するには、「[新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得](#)」(P.19) に進んでください。

RMA ライセンス

RMA ライセンスの場合、必要な機能を特定する必要はありません。必要なのは、欠陥のある RMA デバイスの製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) だけです。

次の作業

SKU を使用して CSL ライセンスを取得するには、「[RMA ライセンスの取得](#)」(P.20) に進んでください。

再ホスト ライセンス

再ホスト ライセンスの場合、必要な機能を特定する必要はありません。必要なのは、再ホスト操作の移動元デバイスと移動先デバイスの製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) だけです。

次の作業

SKU を使用して CSL ライセンスを取得するには、「[再ホスト ライセンスの取得](#)」(P.21) に進んでください。

ソフトウェア ライセンスの取得

ライセンスの取得シナリオについては、次の項を参照してください。

- 「[移行ライセンスの取得](#)」(P.16)
- 「[新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得](#)」(P.19)
- 「[RMA ライセンスの取得](#)」(P.20)
- 「[再ホスト ライセンスの取得](#)」(P.21)

移行ライセンスの取得

CSL 移行ライセンスは、次の 2 つの方法で取得できます。

- 「[必要な情報](#)」(P.17)
- 「[移行ポータルの使用](#)」(P.17)
- 「[Cisco License Manager の使用](#)」(P.17)



(注) CSL 移行ライセンスは無料で取得できます。

必要な情報

CSL 移行ライセンスを取得するには、次の情報が必要です。

- 必要な機能の SKU。
これは「[必要な機能の選択](#)」(P.13) で特定した情報です。
- 製品 ID (PID)
- デバイスのシリアル番号 (SN)

移行ポータルの使用



(注) 次の手順で使用する URL のいくつかは、Cisco.com のパスワードがないとアクセスできません。

既存の Cisco Unity Express 7.1 機能の移行ライセンスを取得するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** www.cisco.com/go/license にあるライセンシング ポータルにアクセスし、ページの下部のリンクをクリックして、ライセンス移行ポータルに移動します。
- ステップ 2** 移行する機能を実行しているルータで **show inventory** コマンドを入力し、対応する製品 ID とシリアル番号を確認します。
- ステップ 3** 適切な製品 ID とシリアル番号を入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。
製品 ID は、使用しているネットワーク モジュールのタイプです (AIM-CUE など)。
- ステップ 4** 製品ファミリー、製品、および機能 (SKU) をドロップダウン メニューで選択し、[続行 (Continue)] をクリックします。
製品には、前の項で移行する機能について特定した SKU を使用します。
会社名や電子メール アドレスなどの登録情報を入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 5** すべてのライセンス情報を確認し、[送信 (Submit)] をクリックして無料の CSL アップグレード ライセンス ファイルを電子メールで受け取ります。
- ステップ 6** 移行する機能を実行している各デバイスについて、上記の該当する手順を繰り返します。
- ステップ 7** ライセンス ファイルを FTP または TFTP サーバにコピーします。

次の作業

CSL ライセンスをインストールするには、「[ライセンスのインストール](#)」(P.22) に進んでください。

Cisco License Manager の使用

Cisco License Manager は、シスコからのライセンスの取得、ネットワーク内のシスコ デバイスへのライセンスの配置、デバイスの検出、およびライセンスとデバイスのインベントリの管理と表示を支援するソフトウェア アプリケーションです。

Cisco License Manager の使用に関する制約事項

- Cisco License Manager (CLM) は、Windows XP がインストールされているサーバでだけ動作します。
- Cisco License Manager サーバと GUI クライアントの間にファイアウォールを置くことはできません。
- デバイス通知が正常に行われるようにするには、Cisco License Manager ホスト名がドメイン ネットワーク サービス (DNS) に存在すること、またはメッセージを受信する Cisco License Manager ホスト名または IP アドレスがデバイスに設定されていることを確認します。



(注) これらのコマンドの概要については、『[Getting Started with Cisco License Manager on Windows XP](#)』を参照してください。デバイスで Cisco License Agent を有効にする方法の詳細については、Cisco License Agent のドキュメントを参照してください。

- Cisco License Manager サーバから Cisco.com への有効な接続が存在することを確認します。



(注) その他の要件およびガイドラインについては、Cisco.com の『[Cisco License Manager Documentation](#)』を参照してください。

Cisco License Manager の使用に関する情報

ネットワーク全体にわたる配置の場合、Cisco License Manager は、セキュリティで保護された方法で Cisco.com のバックエンド ライセンス取得システムと通信し、取得したライセンスをネットワーク全体の管理対象デバイスに配置することで、ライセンスに関連するすべてのワークフローを自動化できます。また、このアプリケーションは、配置したライセンスのインベントリを保持し、ライセンス レポートを生成します。

Cisco License Manager のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を使用すると、特定のライセンシング タスクのためのプログラムを記述できます。Cisco License Manager は Windows XP 上で動作し、Java を使用して Cisco.com およびシスコのデバイスに接続します。

無料の Cisco License Manager Client および Server アプリケーションのダウンロードとインストール、またはオプションの Cisco License Manager ソフトウェア開発キット (SDK) の注文の詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/clm>

Cisco License Manager は、暗号化汎用ソフトウェア イメージまたは非暗号化汎用ソフトウェア イメージのいずれかを実行しているデバイスをサポートします。ルータで暗号化ソフトウェア イメージが実行されている場合、Cisco License Manager サーバと通信するには、ルータにデバイス証明書が必要です。詳細については、Cisco.com にある次のドキュメントを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps7138/tsd_products_support_series_home.html

次の作業

ライセンスをまだインストールしていない場合は、「[ライセンスのインストール](#)」(P.22) に進んでください。インストールしている場合は、「[評価ライセンスのアクティブ化](#)」(P.25) または「[コール エージェントの設定](#)」(P.27) のいずれかに進んでください。

新しいライセンスまたは追加のライセンスの取得

CSL 移行ライセンスは、次の 2 つの方法で取得できます。

- 「必要な情報」(P.19)
- 「ライセンシング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得」(P.19)
- 「Cisco License Manager を使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得」(P.20)

必要な情報

新しい CSL ライセンスまたは追加の CSL ライセンスを取得するには、次の情報が必要です。

- 必要な機能の SKU。
これは「必要な機能の選択」(P.13) で特定した情報です。
- 製品 ID (PID)
- デバイスのシリアル番号 (SN)

ライセンシング ポータルを使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得



(注) 次の手順で使用する URL のいくつかは、Cisco.com のパスワードがないとアクセスできません。

Cisco Unity Express 7.1 以降の機能の追加ライセンスを取得するには、次の手順に従ってください：

- ステップ 1** ライセンスを注文するには、www.cisco.com/go/ordering にアクセスして、オーダー プロセス（パートナー、Cisco ダイレクトなど）のいずれかを選択します。SKU は、必要な Cisco Unity Express 機能に必要なライセンスを指定するために、注文処理で使用します。ライセンスを購入すると、製品アクティベーション キー（PAK）が送られてきます。PAK は英数字の文字列で、ライセンスを購入したことを示します。
- ステップ 2** ライセンス ファイルを取得するには、www.cisco.com/go/license の Cisco Product License Registration Portal に戻り、適切な情報を入力します。
ライセンスをインストールするデバイスの PAK と一意のデバイス ID (UDI) を入力する必要があります。UDI は、ほとんどのシスコ ハードウェア デバイスの背面にあるラベル、または現場交換可能マザーボードの前面パネルにあるラベル トレイに印刷されています。UDI は、ソフトウェアで確認することもできます。これを行うには、特権 EXEC モードで **show license udi** コマンドを使用します。UDI の主要なコンポーネントは、製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) の 2 つです。
- ステップ 3** ライセンス ファイルをダウンロードするか、電子メールでライセンス ファイルを受け取ります。
- ステップ 4** ライセンスを取得する各デバイスについて、上記の該当する手順を繰り返します。
- ステップ 5** ライセンス ファイルを FTP または TFTP サーバにコピーします。

次の作業

ライセンスをまだインストールしていない場合は、「[ライセンスのインストール](#)」(P.22)に進んでください。インストールしている場合は、「[評価ライセンスのアクティブ化](#)」(P.25) または「[コールエージェントの設定](#)」(P.27)のいずれかに進んでください。

Cisco License Manager を使用した追加機能またはアプリケーションのライセンスの取得

「[Cisco License Manager の使用](#)」(P.17)を参照してください。

RMA ライセンスの取得

CSL RMA ライセンスは、次の 2 つの方法で取得できます。

- 「[必要な情報](#)」(P.20)
- 「[Cisco License Manager を使用した RMA ライセンスの取得](#)」(P.21)
- 「[ライセンシング ポータルを使用した RMA ライセンスの取得](#)」(P.20)

必要な情報

新しい CSL ライセンスまたは追加の CSL ライセンスを取得するには、次の情報が必要です。

- 製品 ID (PID)
- デバイスのシリアル番号 (SN)

ライセンシング ポータルを使用した RMA ライセンスの取得



(注) 次の手順で使用する URL のいくつかは、Cisco.com のパスワードがないとアクセスできません。

Cisco Unity Express 機能の追加ライセンスを取得するには、次の手順に従ってください：

- ステップ 1** www.cisco.com/go/license にあるライセンシング ポータルにアクセスし、RMA のリンクをクリックします。
- ステップ 2** RMA デバイスの一意のデバイス ID (UDI) を入力します。
UDI は、ほとんどのシスコ ハードウェア デバイスの背面にあるラベル、または現場交換可能マザーボードの前面パネルにあるラベル トレイに印刷されています。UDI は、ソフトウェアで確認することもできます。これを行うには、特権 EXEC モードで **show license udi** コマンドを使用します。UDI の主要なコンポーネントは、製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) の 2 つです。
- ステップ 3** ライセンス ファイルをダウンロードするか、電子メールでライセンス ファイルを受け取ります。
- ステップ 4** ライセンスを取得する各デバイスについて、上記の該当する手順を繰り返します。
- ステップ 5** ライセンス ファイルを FTP または TFTP サーバにコピーします。
- ステップ 6** 「[次の作業](#)」(P.21)を参照してください。

Cisco License Manager を使用した RMA ライセンスの取得

「Cisco License Manager の使用」(P.17) を参照してから、「次の作業」(P.21) を参照してください。

次の作業

ライセンスをまだインストールしていない場合は、「ライセンスのインストール」(P.22) に進んでください。インストールしている場合は、「コール エージェントの設定」(P.27) に進んでください。

再ホスト ライセンスの取得

CSL 再ホスト ライセンスは、次の 2 つの方法で取得できます。

- 「Cisco License Manager を使用した RMA ライセンスの取得」(P.21)
- 「ライセンシング ポータルを使用した RMA ライセンスの取得」(P.20)

必要な情報

新しい CSL ライセンスまたは追加の CSL ライセンスを取得するには、次の情報が必要です。

- 製品 ID (PID)
- デバイスのシリアル番号 (SN)
- デバイス認定証

ライセンシング ポータルを使用した再ホスト ライセンスの取得



(注) 次の手順で使用する URL のいくつかは、Cisco.com のパスワードがないとアクセスできません。

Cisco Unity Express 機能の追加ライセンスを取得するには、次の手順に従ってください：

- ステップ 1** www.cisco.com/go/license にあるライセンシング ポータルにアクセスし、「Upload a Rehost Ticket」というラベルが付いているリンクをクリックします。
- ステップ 2** 「Look Up a License」というラベルが付いているリンクをクリックします。
- ステップ 3** デバイスの一意のデバイス ID (UDI) と認定証を入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。
UDI は、ほとんどのシスコ ハードウェア デバイスの背面にあるラベル、または現場交換可能マザーボードの前面パネルにあるラベル トレイに印刷されています。UDI は、ソフトウェアで確認することもできます。これを行うには、特権 EXEC モードで **show license udi** コマンドを使用します。UDI の主要なコンポーネントは、製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) の 2 つです。
- ステップ 4** 再ホスト チケットを入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 5** 再ホスト チケットが適切な機能をカバーしていることを確認し、[続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 6** 必要なライセンス所有者の情報を入力し、[続行 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 7** すべてのライセンス情報を確認し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8** ライセンス ファイルをダウンロードするか、電子メールでライセンス ファイルを受け取ります。

- ステップ 9** ライセンスを取得する各デバイスについて、上記の該当する手順を繰り返します。
- ステップ 10** ライセンス ファイルを FTP または TFTP サーバにコピーします。
- ステップ 11** 「次の作業」(P.22) を参照してください。

Cisco License Manager を使用した再ホスト ライセンスの取得

「Cisco License Manager の使用」(P.17) を参照してから、「次の作業」(P.22) を参照してください。

次の作業

ライセンスをまだインストールしていない場合は、「ライセンスのインストール」(P.22) に進んでください。インストールしている場合は、「評価ライセンスのアクティブ化」(P.25) または「コール エージェントの設定」(P.27) のいずれかに進んでください。

ライセンスのインストール

ライセンスは、次の 2 つの方法でインストールできます。

- 「CLI コマンドを使用したライセンスのインストール」(P.22)
- 「Cisco License Manager を使用したライセンスのインストール」(P.24)

CLI コマンドを使用したライセンスのインストール

シスコ ライセンシング ポータルからライセンスを取得して FTP または TFTP サーバにコピーしたら、次の CLI コマンドを使用してライセンスをインストールします。次の手順では、FTP だけを使用しています。

手順の概要

1. `license install ftp://username:password@ip_address/path/license_file`
2. `reload`
3. `enable`
4. `show license all`
5. `show license in-use`
6. `show license status application`

手順の詳細

ステップ 1 `license install ftp://username:password@ip_address/path/license_file`

すべてのライセンスをインストールするには、このコマンドを使用します。次の例（読みやすくするために一部省略しています）に示すように、このコマンドを実行すると、いくつかのアクションが開始され、その結果、エンドユーザ ライセンス契約とそれに同意するように求めるプロンプト（拡張ライセ

ンスの場合だけ) か、ライセンスがインストールされていることを示すメッセージが表示されます。ライセンスが正常にインストールされると、インストールを確認し、ライセンスを取得した機能が現在のイメージに存在するかどうかを示すメッセージが表示されます。

```
service-module# license install ftp://192.1.1.53/lic/nme-159/nme-159.lic
```

```
Installing...Feature:VMIVR-IVR-SESS...Successful:Supported
License Note:
Application will evaluate this change upon next reload
Installing...Feature:VMIVR-VM-MBX...Successful:Supported
License Note:
Application will evaluate this change upon next reload
Installing...Feature:TCV-USER...Successful:Supported
License Note:
Application will evaluate this change upon next reload
Installing...Feature:VMIVR-PORT...Successful:Supported
License Note:
Application will evaluate this change upon next reload
4/4 licenses were successfully installed
0/4 licenses were existing licenses
0/4 licenses were failed to install
```

インストール プロセスでは、重複するライセンスはインストールされません。重複するライセンスが検出されると、次のメッセージが表示されます。

```
Installing...Feature:xxx-xxx-xxx...Skipped:Duplicate
```



(注)

次の手順に進む前に、すべてのライセンスをインストールしてください。

ステップ 2 reload

モジュールを再起動するには、このコマンドを使用します。

```
service-module# reload
```

ステップ 3 enable

特権 EXEC モードを開始するには、このコマンドを使用します。

```
service-module# enable
```

プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

ステップ 4 show license all

モジュールにインストールされているすべてのライセンスの概要を表示するには、このコマンドを使用します。

```
service-module# show license all
StoreIndex: 0 Feature: VMIVR-PORT Version: 1.0
License Type: Permanent
License State: Active, In Use
License Count: 4 / 4
License Priority: Medium
License Store: Evaluation License Storage
StoreIndex: 0 Feature: VMIVR-VM-MBX Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
Evaluation total period: 8 weeks 4 days
Evaluation period left: 8 weeks 4 days
License Count: 600 / 0
License Priority: None
License Store: Evaluation License Storage
StoreIndex: 1 Feature: VMIVR-PORT Version: 1.0
```

```

License Type: Evaluation
License State: Inactive
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 4 days
License Count: 60 / 0
License Priority: None
License Store: Evaluation License Storage
StoreIndex: 2 Feature: VMIVR-IVR-SESS Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 4 days
License Count: 60 / 0
License Priority: None

```



(注)

モジュールが Cisco Unity Express 7.1 以降に付属していたものである場合は、上記のように、CSL ベースの評価ライセンスが出力に表示されません。

ステップ 5 show license in-use

モジュールで使用されているライセンスに関する情報を表示するには、このコマンドを使用します。

```

service-module# show license in-use
StoreIndex: 0 Feature: VMIVR-PORT Version: 1.0
License Type: Permanent
License State: Active, In Use
License Count: 4 /4
License Priority: Medium
StoreIndex: 1 Feature: VMIVR-VM-MBX Version: 1.0
License Type: Permanent
License State: Active, In Use
License Count: 5 /5
License Priority: Medium

```

ステップ 6 show license status application application-name

モジュールにインストールされているアプリケーションに関する情報を表示するには、このコマンドを使用します。アプリケーション名を指定しない場合は、ボイスメールと IVR に関する情報が表示されます。

```

service-module# show license status application
voicemail enabled: 4 ports, 4 sessions, 5 mailboxes
ivr disabled, no activated ivr session license available

```

Cisco License Manager を使用したライセンスのインストール

「Cisco License Manager の使用」(P.17) を参照してください。

次の作業

評価ライセンスを使用する場合は、「評価ライセンスのアクティブ化」(P.25) に進んでください。使用しない場合は、「コールエージェントの設定」(P.27) に進んでください。

評価ライセンスのアクティブ化

Cisco Unity Express 7.1 以降では、ソフトウェア イメージに評価ライセンスが含まれています。これらのライセンスにより、恒久ライセンスを購入する前に、機能を評価できます。ただし、これらのライセンスは、一定期間が経過すると有効期限が切れます。ライセンスの有効期限がいつ切れるかを確認するには、**show license evaluation** コマンドを使用します。

シスコでは、評価ライセンスの有効期限が切れる前に、恒久ライセンスをインストールしてアクティブにすることをお勧めします。恒久ライセンスをインストールするには、「[ソフトウェア ライセンスの取得](#)」(P.16) および「[ライセンスのインストール](#)」(P.22) を参照してください。恒久ライセンスは、インストールすると自動的にアクティブになります。

次の手順では、バージョン 7.1 で導入されたコマンドを使用します。これらのコマンドを使用すると、次の操作を実行できます。

- サービス モジュールに存在する評価ライセンスを表示する。
- メールボックスの評価ライセンスをアクティブにしてエンド ユーザ ライセンス契約 (EULA) に同意する。
- ポートの評価ライセンスをアクティブにする。
- IVR セッションの評価ライセンスをアクティブにする。
- アクティブになっている評価ライセンスを確認する。

手順の概要

1. **show license evaluation**
2. **license activate voicemail mailboxes** アクティブにするメールボックスの数
3. **license activate ports** アクティブにするポートの数
4. **license activate ivr sessions** アクティブにする ivr セッションの数
5. **license activate timecardview** アクティブにする TimeCardView ユーザの数
6. **reload**
7. **show license in-use**

手順の詳細

ステップ 1 show license evaluation

システムに存在する評価ライセンスを表示するには、このコマンドを使用します。このコマンドの出力を次に示します。

```
service-module# show license evaluation
StoreIndex: 0 Feature: VMIVR-VM-MBX Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 4 days
License Count: 600 / 0
License Priority: None
StoreIndex: 1 Feature: VMIVR-PORT Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 4 days
License Count: 60 / 0
```

```

License Priority: None
StoreIndex: 2 Feature: VMIVR-IVR-SESS Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA accepted
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 4 days
License Count: 60 / 0
License Priority: Low

```

ステップ 2 license activate voicemail mailboxes アクティブにするメールボックスの数

メールボックスのライセンスをアクティブにするには、このコマンドを使用します。以前にエンドユーザライセンス契約に同意していなかった場合は、このコマンドを実行すると、次の出力に示すように、エンドユーザライセンス契約が表示されます。

```
service-module# license activate voicemail mailboxes 275
```

```
Evaluation licenses are being activated in the device for the following feature(s):
```

```
Feature Name: VMIVR-VM-MBX
```

```
PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR
LICENSE KEY PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH
PRODUCT FEATURE CONSTITUTES YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING
TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT WILLING TO BE BOUND
BOUND BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.
```

```
You hereby acknowledge and agree that the product feature license
is terminable and that the product feature enabled by such license
may be shut down or terminated by Cisco after expiration of the
applicable term of the license (e.g., 30-day trial period). Cisco
reserves the right to terminate or shut down any such product feature
electronically or by any other means available. While alerts or such
messages may be provided, it is your sole responsibility to monitor
your terminable usage of any product feature enabled by the license
and to ensure that your systems and networks are prepared for the shut
down of the product feature. You acknowledge and agree that Cisco will
not have any liability whatsoever for any damages, including, but not
limited to, direct, indirect, special, or consequential damages related
to any product feature being shutdown or terminated. By clicking the
"accept" button or typing "yes" you are indicating you have read and
agree to be bound by all the terms provided herein.
```

```
ACCEPT? [y/n]? yes
```

```
License activation count saved for use at next reload
```

ステップ 3 license activate ports アクティブにするポートの数

ポートのライセンスをアクティブにするには、このコマンドを使用します。出力は、上記のメールボックスのライセンスをアクティブにした場合の出力と似ています。

```
service-module# license activate ports 4
```

ステップ 4 license activate ivr sessions アクティブにする ivr セッションの数

IVR セッションのライセンスをアクティブにするには、このコマンドを使用します。出力は、上記のメールボックスのライセンスをアクティブにした場合の出力と似ています。

```
service-module# license activate ivr sessions 2
```

ステップ 5 license activate timecardview users

TimeCardView ユーザのライセンスをアクティブにするには、このコマンドを使用します。この手順を実行する前に、TimeCardView アドオン パッケージをインストールする必要があります。

ステップ 6 **reboot****ステップ 7** **show license in-use**

アクティブになっている評価ライセンスを確認するには、このコマンドを使用します。

```
service-module# show license in-use
StoreIndex: 0 Feature: VMIVR-VM-MBX Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, In Use
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 3 days
  Expiry date: Sun Jul 5 16:08:06 2009
License Count: 600 /275
License Priority: Low
```

**(注)**

再起動後にメールボックス、ポート、または IVR セッションを無効にするには、該当する **license activate** コマンドの **no** 形式を、数を指定せずに使用します。

コール エージェントの設定

Cisco Unity Express バージョン 7.1 以降で CSL ライセンスを使用する場合、コール エージェントはライセンスによって決定されません。

ただし、Cisco Unified CME と Cisco Unified Communications Manager のどちらを使用するかを選択して、コール エージェントを設定する必要があります。これを行うには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。

- ポストインストール プロセス中に設定する。
- サービス モジュールの起動後に **call-agent** コマンドを使用して設定する。

これらの方法については、次の項で説明します。

- 「[ポストインストール プロセス中のコール エージェントの設定](#)」(P.27)
- 「[起動後のコール エージェントの設定](#)」(P.28)

ポストインストール プロセス中のコール エージェントの設定

次の出力は、Cisco Unity Express 7.1 以降のイメージのポストインストール プロセスの一部として Cisco Unified CME のコール エージェントを設定する方法を示しています。

**(注)**

ポストインストール プロセスは、一部のデバイスではサポートされません。

```
Would you like to manually adjust the system time (y,n)? no
executing app post_install

Enter Call Agent
  1) Cisco Unified Communications Manager (CUCM) -- default
  2) Cisco Unified Communications Manager Express (CUCME)
  #? : 1
Setting Call Agent to CUCM
```

次の **show** コマンドを使用すると、選択されているコール エージェントを確認できます。

```
service-module# show call-agent
Call-agent:          CUCM
```

起動後のコール エージェントの設定

次の出力は、サービス モジュールの起動後に Cisco Unified Communications Manager のコール エージェントを設定する方法を示しています。この操作は元に戻せないため、この方法は注意して使用してください。

```
service-module# call-agent ccm
!!!WARNING!!!: This operation will
  a. permanently delete all non-local site related configuration
  b. reboot the system automatically
This operation is not reversible.
Do you wish to continue[n]? : yes
```

その他の関連資料

ここでは、Cisco Software Activation の機能に関連する参考資料を示します。

関連資料

関連項目	参照先
Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション	Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションのホームページ
	『Cisco IOS Software Activation Configuration Guide』の「Cisco Software Activation Conceptual Overview」
	『Cisco IOS Software Activation Tasks and Commands』
	『Software Activation on Cisco Integrated Services Routers』
	『Software Activation Q&A for Cisco Integrated Services Routers』
	『Cisco License Manager Documentation』
Cisco Unity Express のインストールと設定	『Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrators ' s Guide for 3.0 and later versions』
	『Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and later versions』
	『Release Notes for Cisco Unity Express』
	『Cisco Unity Express Installation and Upgrade Guide』

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンライン リソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</p>

用語集

Cisco License Manager : ライセンスを追跡および管理するためのグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) を提供するソフトウェア ツール。

PAK : 製品認証キー。PAK は、特定のプラットフォーム向けのフィーチャ セットの使用权を注文して購入すると提供されます。PAK は受領書の代わりになるもので、ライセンスの取得プロセスの一部として使用されます。

RMA : 返品許可。お客様が欠陥のある製品を返品するプロセスです。

SKU : 在庫保管単位。インベントリの追跡および監視に使用される、一意の個別部品番号です。シスコソフトウェア ライセンシング SKU は、1 つ以上のソフトウェア機能にマップされます。

SWIFT : ソフトウェア インフラストラクチャおよび取得テクノロジー。インターネット上で HTTPS を使用してアクセスできるシスコ ライセンシング インフラストラクチャです。Cisco License Manager は、さまざまなデバイスに代わってシスコ ライセンシング インフラストラクチャと通信します。お客様は、Cisco IOS ソフトウェアのコマンドを使用して、シスコ ライセンシング インフラストラクチャと通信できます。

UDI : 一意のデバイス ID。UDI は、シスコ全体で使用される製品識別スキーマです。UDI には、製品 ID、バージョン ID、およびシリアル番号が含まれます。UDI は導入時に変更されません。UDI という用語がライセンシングのコンテキストで使用される場合、通常は製品 ID とシリアル番号だけを指します。

永続ストレージ : ライセンスが付与されたデバイスのライフタイムにわたって存続し、イメージが変更された場合でも削除されないファイル。このファイルの最適な格納場所は、書き込みが一度しかできないストレージ領域です。永続ファイルでは、デバイスのライセンス履歴と、ライセンスの削除、期限切れ、再ホストなどに関する特定の情報が保持されます。

永続ライセンス : 使用权が恒久的に継続するライセンス。これらのライセンスは、必要な限り恒久的に使用できます。

権限ファイル : ライセンス行ファイルと同じ。

再ホスト : あるプラットフォームから別のプラットフォームに有効なライセンスを移動するプロセス。これは、元のプラットフォームでライセンスが無効になることを意味します。

シグニチャ サーバ：製品のライセンスを生成するサーバ。シスコの製造所にあります。権限ファイルジェネレータと呼ばれることもあります。

スタック：スイッチ スタック。StackWise ポートを介して接続された、最大 9 個の Catalyst 3750 スイッチのセットです。

登録ベースのライセンス：ユーザによる定期的な更新を必要とする時間ベースのライセンス。ユーザが定期的に更新しないと、契約期間の経過後にライセンスの有効期限が切れます。

ノード固定：一意のライセンスの、一意のハードウェア プラットフォームへの明示的なバインディング。ノード固定ライセンスは、システム内の UDI の 1 つに固定されます。非ノード固定ライセンスは、どの UDI にも固定されません。

汎用イメージ：Cisco IOS のすべての機能レベルを含む単一のソフトウェア イメージ。これらのレベルは、適切なライセンスをインストールすることで有効化できます。

ライセンス キー：Cisco IOS フィーチャ セットの使用権を有効にする一意の値。

ライセンス行：特定の形式で配置された文字列。1 つの機能のライセンスを保持します。1 つの行には、必要なすべてのフィールドと属性が含まれています。これにより、有効で、改ざんできない、完成したライセンスになります。単一の行は個別に存在できます。

ライセンス サーバ：ハードウェアの製造所にあるソフトウェア ツール。製品ライセンスを生成します。

ライセンス ストレージ：ライセンス行のコレクションを格納するファイル。ライセンス ファイルは、ライセンスを取得したデバイス（ルータまたはスイッチなど）にあります。このファイルは永続ストレージ内にあります。

ライセンス ファイル：シスコ ライセンシング ツールで生成されるファイル。製品にライセンスをインストールするために使用されます。ライセンス ファイルには、1 つ以上のライセンス行が格納されません。

ライセンス マネージャ：お客様のライセンスの追跡および管理に使用されるアプリケーション。

リムーバブル ストレージ：データの保存およびアクセスに使用されるポータブル デバイス（コンパクトフラッシュまたは USB など）。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>